

2021.7.15 (木)
第3回例会
(通算3630回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン『我がロータリーを楽しむ。我が地域を育む。』

第85代会長 杉村 莊平
副会長 浅川 正紳
幹事 市橋 多佳丞
編集責任者 クラブ会報雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2021-2022年度
国際ロータリーテーマ



※仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度
RI会長 シェカール・メータ
第2500地区ガバナー
漆崎 隆 (釧路ベイRC)

月間テーマ

本日のプログラム 講師例会「鉄道ファンからみたひがし北海道の魅力」(担当：プログラム委員会)

次週例会 「スタートアップパワーランチ」(担当：親睦活動委員会)

- ロータリーソング：「我等の生業」 ■ ソングリーダー：吉岡 央君
- 会員数 98名
- ビジター なし
- ゲスト (株)釧路新聞社 代表取締役 星 匠様

会長の時間

杉村 莊平会長



お食事の方はそのままお続けください。本日も多数ご出席いただきまして本当にありがとうございます。また、舟木パスト会長もご出席ありがとうございます。

す。ひとつ反省点からでございます。先ほど各種お祝いの時に良かれと思って皆さんに握手を求めたのですが、この非接触をやっている中で「何を握手しているのだ」ということでございまして、途中から気付いたのですが、途中から止めるわけにもいかないものですから、すみません。握手してしまった方、手洗いをぜひお願いしたいと思います。大変失礼いたしました。先週のアッセンブリー、多数ご出席いただきまして本当にありがとうございます。皆さまの熱い友情のおかげで奇跡的に時間どおりに終わることができました。本当にありがとうございました。日程的に少し不規則な開催でございましたが、やはり年度の節目としてやってよかったと思っております。改めて感謝・お礼申し上げます。ありがとうございます。新年度が始まりまして、いよいよ各委員会が動き出しています。まずは、佐藤委員長率います青少年奉仕委

員会。全道中学親善硬式野球大会が8月1日に開催が決まりまして、今年は工業高校のグラウンドで行われることになりました。今年も委員会一丸となって頑張っておりますので、ぜひ皆さんの応援をお願いできればと思います。よろしく願いいたします。セレモニーが続いたことで少し落ち着いた感じになりました。と言っても今日も時間がないのですが、少し会長挨拶をさせてもらえればと思います。もう10年くらい前ですけども、帯広の某有名企業の会長さんとお話する機会がありました。その会長さんと話している時に「僕らの小学校時代の修学旅行先は釧路だった。釧路は帯広と比べるまでもなく大都会で、もう前の日から行くのが楽しみだったんだ。けども、そんなことを言う人も、いなくなってしまったね〜」。なんて言うことを聞いたことがあります。大都会釧路がなぜ帯広に抜かれてしまったのか、追い越されてしまったのか。これはいろんな要因があると思います。これは皆さん、耳にタコの狩猟民族・農耕民族論というのがありまして、釧路地域というのは本当に資源に恵まれて、石炭・水産・木材という産業的資源以外にも観光的資源でも阿寒湖・摩周湖・屈斜路湖・釧路湿原・タンチョウ・マリモト、あって当たり前感覚から抜け切れなかったのが釧路で、ないものを作り、コツコツと育ててきたのが十勝だったのだと思っています。そういう釧路をどうにかして良くして行かなきゃとい

う方法論、いろいろあると思います。この素晴らしい資源をひとつひとつ掘り起こして、ブランディング化していこうというのが、いま木下さんがやられている「ひがし北海道」の活動だと思っています。

僕は、ひがし北海道のエリアの中で、屈斜路から川湯・硫黄山を通るラインが大変好きな所です。実はいま、川湯駅周辺が大ブレイク中なのをご存じでしょうか。カフェや雑貨店ができて、混んでいる所は休日になるといっぱい入れないカフェがありまして、大変賑わっています。

そこで気づくのが、この釧網線の観光鉄道としての大いなる可能性です。私論ですが、釧網線を「ひがし北海道満喫線」とか、そんな名前に名称変更して、ひがし北海道のブランディング化のひとつにして大いに売り出していだければと思っています。山田支社長、よろしく願いいたします。

どちらにしても地元として大いに釧網線や花咲線を応援すべきだと思っています。これ以上続けていきますと星社長のお話のお邪魔になるかと思うので、今日の挨拶はこの辺にしたいと思います。

これからも会長挨拶、頑張りますのでどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

幹事報告 市橋多佳丞幹事

皆さま、こんにちは。幹事報告の1点目です。先日発生しました7月の熱海豪雨災害の義援金のお願いにつきまして、2620地区から2500地区を通してご依頼がありましたので例会中に義援金ボックスを副幹事が回します。本日は講話となっておりますので音を立てない静かな物を入れていただければと思います。ご協力をお願いいたします。

また、世界会議が2022年6月4日から8日までアメリカ・ヒューストンで行われることになっております。この事前登録の受付が始まっております。登録用紙は私の所に届いておりますのでご興味のある方はご一報ください。よろしく願いいたします。以上です。

新入会員紹介

スポンサー 小野寺 俊会員

それでは、曾我部元親さんのご紹介をさせていただきます。曾我部さんは昭和41年、阿寒町でお生まれになりました。大学卒業後、サラリーマンを経て地



元阿寒町に戻られ、家業に入られました。その後、令和元年にお父様が経営する北泉開発株式会社の代表取締役役に就任して現在に至っております。

多方面で活躍されている曾我部さんを皆さまはよくご存じかと思えます。本業の建設業というよりも、エゾシカ肉での活躍をよく耳にしていると思えます。関連事業のエゾシカの養鹿(ようろく)や食肉加工では、事業立ち上げ時より陣頭指揮をとり、エゾシカ肉の組合の代表理事を務めるなど普及に尽力されております。

田中パスト会長年度に一度、エゾシカ肉の講演をしていただいたことがありますのでご記憶の方もいらっしゃるかもしれません。

私とは年齢も近いこともあり、地元の良き兄貴分としてお付き合いいただいております。数年前から活動しておりますNPO法人の活動でも力を貸してくれる頼もしい先輩でもございます。

ご家族は奥様とお二人の娘さんとの4人家族で、長女は札幌で社会人、次女も札幌で大学生とのことです。現在はご夫婦が阿寒町で暮らしております。ちなみに奥様ですが、阿寒町セイコーマート協で『牧場ソフトクリーム』の販売をされておりますので、皆さんもソフトクリームを購入したことがあるのかなと思います。

趣味は映画鑑賞とゴルフで、ハンディキャップは13と大変お上手です。最近、パッティングが絶不調で悩んでおりましたけれども「パターを新しくしたら調子が良くなってきた」そうです。

そんな多方面でご活躍されている曾我部さんですので、釧路クラブでの活躍でも尽力していただけるものと思っております。それでは、曾我部さんからご挨拶をいただきます。

北泉開発株式会社 代表取締役 曾我部元親様



皆さん、こんにちは。ただいま、ご紹介にあずかりました北泉開発の曾我部と申します。この度、歴史と伝統のある釧路ロータリークラブ様に入会させていただき、誠にありがとうございます。また、推薦に当たりましては、親戚で叔父にあたるマルカツ吉田新聞店の吉田会長様、そして地元で大変親しくさせていただいております小野寺社長、お二人の推薦をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げたいと思

います。仕事の件なのですが、今、小野寺社長からいろいろ説明がありましたが、本業は砂利砕石業、墓石を中心にやっております。最近、エゾシカ肉が少し有名ですので「北泉開発といえばエゾシカ肉」と言われることもあります。このコロナ禍で大打撃を受けていて、非

常に苦戦している部門でもございます。

また、いろんな活動を今までしてきましたが、ロータリー活動に関しましては全くの無知でございます。先ほど、脇さんからレクチャーをいただきましたが、まだまだ分からないことがございますので、今後は先輩皆さまのご指導・ご鞭撻を賜りながら頑張りたいと思いますので、今後ともどうかよろしく願いいたします。

スポンサー 村上 祐二会員

私から本日入会されました濱口憲太さんの紹介をさせていただきます。冒頭、市橋幹事より「手短に、できれば30秒程度でやりなさい」と言われております



ので、手短にしたいと思います。

お仕事は、環境コンサルタント株式会社の代表取締役。環境テクノスではございません、環境コンサルタントでございます。環境テクノスの樋口さんと見た感じが公家のような感じで似たタイプですけれども、環境コンサルタントでございます。

お生まれは昭和52年、44歳です。濱口さんは、私は十数年前から一緒にいるのですけれども本当に真面目、曲がったことが大嫌いという方。私のように心身ともに曲がりくねった男では、たまに酒を飲んでみると冷ややかな目で見られることがあります。本当に素晴らしい青年でございます。

趣味はゴルフと水泳。ゴルフはハンディキャップ30。最近ゴルフに随分ハマっているということで、皆さんどうぞ誘っていただければと思います。ご家族は奥様と16歳の娘さん、12歳の息子さんです。

それでは早速、濱口さんから一言ご挨拶、お願いいたします。

環境コンサルタント株式会社

代表取締役社長 濱口 憲太様



皆さま、こんにちは。ただいま村上様よりご紹介を賜りました環境コンサルタント株式会社・濱口憲太と申します。天方様、村上様よりお声がけを賜りまし

て、正直、私ごときがこのような素晴らしい会に本当に適しているのかと大変恐縮な思いをさせていただいております。しかし、それにもまして歴史と伝統あ

る釧路ロータリークラブに入会をさせていただく光栄の思いが、私の中では溢れかえっている状況でございます。

弊社の創業者であります祖父がかつてロータリアンでありました時、私は当時7歳でありましたけれども、何も分からない中このように手をつないで歌を歌ったような記憶が微かに残っています。それから37年経ち、いま私は44歳でこのように皆さまにお迎えをいただいたこと、祖父は亡くなっておりますが、きっと喜んでくれているだろうと感じております。

釧路ロータリークラブの一員としてお認めをいただいた誇りを胸に、愛する郷土釧路に少しでも恩返しができますように先輩の皆さまに多くを学ばせていただきながらロータリアンとして真摯に何事にもチャレンジしてまいりたいと考えております。

活動もゴルフも頑張ります。皆さま、どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

歓迎の言葉 杉村 莊平会長

お二人、ありがとうございます。大期待の新人お二人ということで、素晴らしいスピーチいただきましてありがとうございます。釧路クラブを代表して心から歓迎いたします。ありがとうございます。

手短にと思いますが「ロータリーの出席は義務ではなく権利だ」とよく言われます。せっかく入ったロータリーですからその権利を大いに活用して、楽しく有意義なものにしてもらえればと思っております。最初の三カ月に少し大変なところがあります。そこを乗り切ってもらえればだいぶ楽になってくると思います。積極的に飛び込んで一日も早く馴染んでいただければと思います。本日はよろしく願いいたします。

新入会員の配属について 杉村 莊平会長

配属委員会を失念いたしておりました。大変失礼いたしました。曾我部さんにおかれましては会員増強職業分類委員会、委員長は五十嵐委員長でございます。よろしく願いいたします。濱口さんにおかれましては親睦活動委員会、委員長は滝波君でございます。よろしく願いいたします。

何かありましたら配属委員長にご相談いただければと思います。よろしく願いいたします。

■本日のプログラム■

講師例会「鉄道ファンからみたひがし北海道の魅力」

株式会社釧路新聞社

代表取締役 星 匠様

プログラムの順番を変えていただいたりしてすみません。データをきちんと入れて来たつもりでしたが、残念ながら違うデータが入ってしまっていて、人生



で久しぶりに焦りました。いま準備をいたします。

今日は『鉄道ファンから見たひがし北海道』というお題をいただきました。一応、私も釧路新聞社の人

間なので、本来であれば地域のオピニオンリーダーとしての市役所どうなのか、商工会議所どうなのかという話が来なくて、最近私に講演してくださいというのは「鉄道の話」しか来なくなってきました。そんな中で少しお話させていただきたいと思います。

今日は花咲線と釧網線の魅力を中心に、この絵面でお話したいと思います。自己紹介は先ほどしていただいたので、最初のお話は花咲線と釧網線はこの辺ですよということです。

では、花咲線の魅力はということで。2週間ほど前、この講演をやるのだったら改めてこれに乗ってこなきゃとだめだということで乗ってきました。ちょっとご説明したいと思います。

花咲線は、まず釧路川を渡り、別保を過ぎると珍しくこういう山間地帯に入ります。緑色で見づらいのですが、これは谷内坊主（ヤチボウズ）です。秋から冬にかけてポンポン出てきて、特に本州の方には「会合やっているみたいだね」というお話も受けます。厚岸に近づくと、こういう海岸線を走ります。大黒島どとか遠くに厚岸大橋が見えて、沿線のポイントになっています。

厚岸を過ぎると、進行方向に向かって右側に厚岸湖が見え始めてカキの養殖場が見えております。続きまして、間髪入れずにラムサール条約登録湿地のひとつ、別寒辺牛湿原のど真ん中走って行きます。釧路湿原の釧網線も確かに良いのですが、ど真ん中走るのここが唯一だと思います。

浜中町に入っていきますと、ルパン三世を作ったモンキーパンチ先生の生まれた所ですので、各駅にはこういったルパンや銭形警部がイラストで飾られております。浜中を過ぎるとだんだん酪農地帯に入っていきます、厚床を過ぎると根室市の落石に入っていきます。ここは花咲線の最大のポイント。たぶんここが「一番日本離れをしている風景」だと思われれます。この日は、私の精進が悪いのか霧が出ていて、奥の落石岬が見えないのです。本当は霧の先にダーッと岬が見える所なのです。が、私はこの景色もさることながら車窓の左側、こういう低木しか育たないような原野を進む、こういう所がかえって本州の方にとっては魅力的なのではないかなと思っています。

それから冬場ここに乗ると、エゾシカ君たちが周りに寄って来て、時々列車と衝突してひかれてしまいます。

そしてそれをオオワシとオジロワシが狙って、たまに列車と並行して走る感じになります。ただ、これも不幸にしてオオワシ君たちも列車にひかれるというのが、いま問題になっています。

この落石を過ぎると昆布盛駅、ちょうどサオマエ昆布の干しているところです。これも全部車窓から撮りました。釧路から根室までずーっと後ろのデッキに立って、こういう写真ばかり撮っておりました。

根室のひとつ手前が東根室という駅です。これは「日本で最東端の駅」で、ちゃんと標識が立っております。終着・根室です。この駅前のインフォメーションセンターには『北の勝』も売っています。僕が着きましたら観光協会の方がいて、ちょっとしたワゴンがあり、『サンマ弁当』も売っていました。私、この日は用事があるのですぐの折り返しの列車で帰って来まして、滞在時間は15分くらい。「サンマ弁当は大丈夫ですか」と聞いたところ、「すぐできます」と根室駅の建物にあるお蕎麦屋さんで調理してもらって、5分くらいでこの弁当が出てまいりました。

次は釧網線です。釧網線は釧路を出ると、最初は遠矢の手前にこうやって湿原が広がって釧路川が見える所があります。この辺から湿原が見えてきて、遠矢を過ぎると水門が見えてきます。今年は釧路川治水計画ができてちょうど100周年という記念の年で、今は弊社と釧路開発建設部さんと釧路建設業協会さんとかで、いろんなこと考えております。いま一番、釧路川の治水にとって大事なのが岩保木の水門、これが車窓から見えてきます。

これは釧路湿原駅です。これを横から見るとタンチョウが羽を広げた形と言われております。その後、達古武湖。そして細岡を過ぎて釧路川と一番接近する場所があります。ノロッコ号ですとここで徐行するのですが、私が乗ったのはノロッコ号ではないのでサーっと



過ぎて行きます。ここでカヌーの方と会うと、お互いに手を振り合う光景が見られる所です。

続きまして、塘路を出て茅沼までの間、シラルトロ湖です。ここが湿原の本当にど真ん中を走って行く所です。

茅沼駅は冬になるとタンチョウが駅の周りに来ています。今は斉藤さんという方の大根畑になっていて、冬場はそこにタンチョウが集まって来る所です。

これは摩周駅です。摩周駅には足湯があります。ちょっと熱いですがいい感じのお湯です。次の川湯温泉駅も足湯があります。弟子屈町は温泉をうまく利用していると思います。

それから川湯温泉をひと山超えるためにトンネルを抜けて行くと、ちょうど今はジャガイモの花が一番咲いていて、斜里岳もバックに見える所です。馬鈴薯や小麦とか、この辺は畑作地帯だなという感じです。

知床斜里駅を過ぎると、止別、北浜、藻琴は昔の駅舎を利用したレストランやラーメン屋が入っていて大変美味しいのです。私たち鉄道好きからすると、列車を見ながらご飯を食べられるという、こんな特等席はないのです。が、列車の本数が少ないので、列車ダイヤに合わせて行くしかありません。

これは浜小清水。ここは道路の道の駅と一緒にあって、特産品なんかもずいぶん売っています。浜小清水駅の下にモンベル (mont・bell) さんが入っているのです。なかなか小清水町やるなと思っていたら、釧路でも三ツ輪さんがアウトドア専門のお店をオープンして、やっぱりこういうのがトレンドなのかなと思います。

浜小清水を過ぎると原生花園の真ん中を過ぎ、一応、黄色やオレンジの花がちょこちょこ見えるのですが、これは車窓からです。この程度しか見えませんが、ただ、そのバックには知床連山が見えますので、ここも釧網線のポイントかなと思います。



これがいわゆる一般の方が「いいな」と思っている所なのですが、私たち鉄道好きから言うと、風景ももちろん良いのですが変なところに萌えます。釧路駅であ

れば、昔の改札はこんな感じで、電光掲示板の時計があって、「どこ行き」がぶら下がっていて、また、特急列車が入っていると、昔はこんな特急だったなとか、こういうのを頭に思い浮かべながら駅や列車を利用しています。

これ今の釧路駅なのですが、4番線・5番線から見ると何か変な建物があります。これは昔の雄別鉄道が走っていた時の跡で、この写真は昭和40年前後の釧路駅の駅裏を写した写真なのです。このように雄別鉄道の列車が走っていた所でした。

東釧路駅は昔、臨港鉄道が走っていたのでこんな広い構内だったのですが、今は住宅地になっています。

あと、上尾幌や尾幌とか。これは厚岸駅の2番線、3番線。これは昭和40年代に厚岸カキ祭りに臨時列車がボンボン出していた時のものです。当時、車で行くという発想がなくて、臨時列車の利用が多かったようです。この車両の形を見て、僕らもまた「この車両、こんなだったよな」とかを厚岸駅に着くと思い出すわけなのです。

これはタカナシ乳業さん、茶内駅。昔は浜中町営軌道

が走っていて、ここにミルクを小さい列車で運んでいました。

厚床駅に来ると、昔の『青春18切符』のポスターの基になった風景がここで見るができます。今もほとんど同じです。あと、厚床駅にターンテーブルという機関車をぐるぐる回すのがあって、これ今まだ残っています。

最後に、これは網走駅に着いた時なのですが、今の『おぞら』の前の型の特急がまだ走っているということで、「この特急のエンジン音を聞いただけで、ちょっと萌える」という僕は、いわゆる変態なのです。これは皆さん理解しがたいものなのですが、線路や列車を見るだけで気分が高揚するというタイプなものです。そんなことまず知ってもらえればと思います。花咲線・釧網線はたしかに観光客が多くなったのですが、一番多い利用者は高校生です。私はこういう人間なので、自宅は緑ヶ岡で東釧路駅から毎日のように列車で通っています。その時に、東釧路駅で厚岸方面や標茶・弟子屈方面からの高校生がすごく降りて来ます。私、数えました。そしたら毎日、標茶・弟子屈から東釧路で降りるのが40から50です。釧路駅まで行く高校生もいるので、多分50～60人位乗って来ると思っています。厚岸方面からはもっと多くて多分、70～80人位来ると思っています。ちなみに彼らは厚岸発6時半の列車に乗って来るのです。ということは、釧路の高校に1学年分くらいの地域のお子さんたちが通って来るのです。「何で下宿させないのか」とお父さん、お母さんに聞いたことがあるのですが、「やっぱり高い」「今、下宿は実際のところあまりない。なので、列車の便は悪いけど通わせている」と。

右側の下に東釧路駅の様子が載っていますが、高校生がここから乗る自転車です。江南・明輝・工業・湖陵・北陽、武修館の子もいるかもしれませんが、ほとんどの高校がちょうど東釧路駅から近いのでここに自転車を置いて行くわけです。もし、ロータリークラブの皆さんで次どこに何か寄付したいなというのがありましたら、自転車を綺麗に並べる物があるのですが、それ東釧路駅にはないので、「星があんなこと言っていたな」と思ったら、余裕がある方は寄付をいただければ、そういう自転車を綺麗に整理する物を整備できたらと思えますので、よろしく願いいたします。

これは全く私見です。花咲線や釧網線も経営的には苦しいと思います。山田支社長さんがいる前と言うのも何なのですが。僕なりに考えると、やっぱり貨物列車がないのが痛いと思うのです。旅客だけだと人口がたくさんいる所でないで経営的にかなり厳しいです。太平洋炭炭販売輸送臨港線という昔の釧路臨港鉄道がつい2年前まで動いていたのは、貨物だけなのですけど効率が良いからですよ。2人の運転手さんと1人の車掌さんで720トンの石炭を一気に運ぶこと

ができるのです。これ、もしトラックで換算すると24人のドライバーさんがいないと運べないということで、やっぱり大量輸送には鉄道が一番だと思うのです。

もうひとつはやっぱり観光ですね。特にインバウンドの方は、レンタカーなどあまり使えない方もいらっしゃるし、高齢者の方もそうです。あと鉄道の路線があるということでもいろいろな地図に載りますので、そこが注目されます。だから観光が大事だと思うのです。

たぶん、皆さんそうだと思うのですが、美味しい料理にお酒は欠かせないわけなのです。私もお酒を飲みながら列車に乗るのが一番の時間だと思っています。

お酒を飲むには車では行けないので、やっぱり公共交通機関を使わざるを得ない。でもバスでお酒を飲むのはちょっと辛いので、そこで列車になるわけですね。そうすると、車窓を見ながら飲んで食べるというのが一番だと思います。

左側の写真ですけど、これは以前、釧路支社さんに『バーベキュー列車』というのがあって、これは私のお仲間たちなのですが臨時列車を仕立てて、帰りは酒を飲みながらバーベキューをつつつきながら来るという列車が昔ありました。最近はないのですが札幌に出張で行った時に、夕方の特急に乗って帰る際、コンビニとかで酒やつまみを買って、列車の中で、1人で飲んで。僕らは『居酒屋おおぞら』と言って楽しみながら帰ってくる、これがやっぱり一番かなと。

こういう別寒辺牛湿原の自然を見ながら、花咲線沿線には、福司あり、厚岸ウイスキーあり、厚岸の氏家のカキ飯あり、タラバガニチラシとか、いっぱいあります。そして、根室方で行くと落石の海岸を見ながら、エスカロップは重たくなってきたので食べられないですけど、浜中のソフトクリーム、忘れちゃいけない北の勝、こういったものを食べたり飲んだりしながら、オオワシを見ながら、とかがやっぱり一番いいかなと思うのです。

JR北海道さんではこういうハマナス編成という観光列車を作って、今度10月にぐるっと、ひがし北海道を回るようになっています。こういう列車も良いのですが、ここら辺を走っている普通の列車をちょっとだけ改造して、ああいうテーブルを付けて楽しめるのがいいなと私は思っています。一例ですけど、レストラン・イオマンテの舟崎さんにフレンチのいいのを作ってもらおうとか、都寿司さんで寿司を出すとか、そんなのがあればいいかなと。

寿司が良いかなと思いました。お寿司はカウンターで食べるのが一番いいのですが、実は1960年代に当時の国鉄で「寿司カウンターを備えたビューフェ」という食堂車が実際にあったのです。こういうのを『お

ぞら』の端っこでも良いのですが作ってもらえないものだろうかと思いました。

最後に「1人、1年、4,000円」と書いているのは、以前に「JR北海道さんのために、必ず道民1人が今乗っている以上に、プラス4,000円乗れば、それなりに経営が安定するのではないか」と言われたこともあり、皆さんのようにJRさんを利用する機会、特に花咲線、釧網線、なにも用事がないのに乗るかというところではない。じゃあ、そのきっかけとしてさっきの生寿司列車や飯寿司列車とかイタ飯列車、あとは炉端列車があると乗りやすいのではないかと考えていました。

もうすでにやっている所があります。函館に『道南いさりび鉄道』というのがあって、『ながまれ号』というなんも変哲もない、列車を少しだけ改造して車内で食事を楽しめるようにしました。これに地元の方々がいろんな特産品を売りに出て来るわけなのです。

千葉県の『いすみ鉄道』では『お寿司・天ぷら列車』を作り、車両はこの辺で走っている列車にテーブルを付けただけなのです。こういうのがあるとどうでしょう、皆さんも乗りたいなと思うのではないのでしょうか。そこで結論ですけど、いま「ひがし北海道ブランド化」というのがありましたけど、鉄道を利用した観光客の方にそういった食材も「全部、これ、ひがし北海道の物だよ」「釧路・根室の物だよ」とアピールする場にもなってほしいのです。さっき「路線の名前変えた方がいいのじゃないか」とお話がありましたけど、私もそれは賛成で、どうせなら花咲線をひがし北海道根室線とか、ひがし北海道釧網線とか、そういう感じに変えていくのもひとつの手かなと思いました。

こういうことやることによって鉄道の利用が増え、地域の食材の利用率もアップすると、地域の経済に貢献しますし、何よりも皆さんの身近に鉄道が感じられるのではないかと考えています。

というわけで、本当に早口で終わりましたが、以上、私の講演を終わらせていただきます。皆さん、ご清聴ありがとうございました。

会長謝辞 杉村 莊平会長

星社長、ありがとうございました。写真も満載で、分かりやすく楽しい講演をいただきました。我々も大変ヒントになったことが数多かったように思います。気のせいか、小野寺君が身を乗り出して、非常に共感しながら見ていたのを、この席から本当によく見えました。

なにせ、われわれとしては会長挨拶で言ったように「あって当たり前」と思わないことが大事だと思っております。日本製紙しかり、無くなってから「あらっ」と思わないで。やっぱり釧網線、花咲線という素晴らしいものがあることをしっかり認識して、これから活

用するように応援していきたいと思います。本日はありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 荒井 剛君 先日の日ハム戦、オリックスの来田選手のおかげで小野寺組とともに全国デビューしました。
- 小野寺 俊君 来週発表の釧路～白糠開業 120 周年記念切手シートに写真を採用して頂きました。

今年度累計 41,000 円